

(公社) 日本給食サーブス協会会長賞

『給食の調理員さん』

福島県いわき市立中央台東小学校 四年一組 女子 三浦 真依

お母さんの仕事は給食の調理員です。まだやりはじめてから一年もたっていないません。まだ始めたばかりだったころのお母さんはふ安そうでした。でも、今はもうなれて、給食作りのなかまの人とごはんを食べに行ったりして、初めのころのふ安はうそのようです。

十二月ごろはだんぼうも何もないので、体じゅうにホッカイロをはって寒そうにしていました。ある日お母さんがぐったりして帰ってきたので、

「どうしたの？」

と聞くと、食かんののこしを捨てる作業をしていたそうです。

「何百個もある重い食かんののこしを急いで捨てるの。とても重いからつかれてしまうんだ。」
と言っていました。重い食かんをしかも急いで中身を捨てるなんてそうとう大へんだなあと思いました。

それから一週間たちました。帰って来たお母さんの手は真っ赤っか。

「熱いお湯でごはんの皿をずっと洗っていたの。」

と言っていたので、びっくりしました。

くる日もくる日もお母さんの手や足にやけどやら青あざやらきずやらつけて帰ってきます。時間内に給食を作るのが大変なようです。

そして夏は、あせが全身ポタポタ落ち、作業服がびしょびしょになるそうです。

お母さんの給食センターには、だんぼうもれいぼうもなく、せんぷうきだけです。こんな大へんな思いをして、私達のおいしい給食が作られています。

そして、私達がおなかをこわしたりしないように、えいせいにも気を配り、よごれや虫などが取れるように、野菜を三回水洗いするそうです。ジャムなどは数が足りないように、二回も三回も数えていると言っていました。

このようにみんながおいしいと給食を食べてもらうために、てまと愛じょうをかけて作っているのです。なのに私達はかんとんに、

「おいしくない。」

とか、

「これきらい。」

とか好ききらいをいっていて、それを聞いた調理員さんは、

「せっかく時間をかけて作ったのに。」

と思うでしょう。なので、好ききらいなくおいしく食べてあげたいです。

私は好ききらいが多く、いつも好きな物だけおかわりして、きらいな物はのこしてしまうので、よそわれた分だけは、しっかり食べたいと思います。